

No. 124 (平成28年11月1日)



お も な 内 容

	ページ
随 想	1
研修講座寸描	2～6
心に残る授業 その⑦④	7
受講後アンケートのお願い・Web紹介	7
出前講座寸描	8
小中連携研修会に参加して	9
出前講座紹介・資料室紹介	9
教育講演会	10
研究室だより「今、研究室では」	11
パソコン実技研修講座の紹介	12

本校では、三十年以上前から学校田での田植えや稲刈り並びに収穫を祝うもちつきを行っています。もちつきでは、東川養護学校中等部の皆さんと一緒に、楽しいひとときを過ごしています。生徒は、体験活動を通してふるさと東川の基幹産業を学び、もちつきを楽しみながら思いやりやおもてなしの心を養っています。

(東川町立東川中学校)

随 想

「夏の日記」

上川教育研修センター

副所長 奥 山 ゆみ子



この夏、日本列島は何十年に一度と言われる猛暑に見舞われ、北海道も今までにない気温と湿度の高さに不快な日々が続いていました。

そんなある日、友人から、娘さんのバイオリンセミナーの成果コンサートの誘いを受けました。バイオリンと聞くと、すぐに思い浮かべるのは、「チゴイネルワイゼン」や「チャルダッシュ」に「ハンガリアンダンス」。他にも名曲と言われる曲は数多あるのに、なぜかこの三曲。ジプシーの哀愁に満ちた、それでいて情熱的な民族の血流がいやでも伝わってくるような個性の強い曲です。これは楽器の特性から言って、人間の繊細な感情や表情までも彷彿とさせるバイオリンという楽器のなせる技だと常々思っています。

バイオリンは楽器の王様だと思っている私は、セミナーのコンサートと聴いて、少し躊躇しました。公開レッスンのようなものでしたら、自分の幻想とも言えるこのバイオリンへの思いが……。と思ったからです。しかし、そのような誘ってくれた人への失礼な思いはすぐに打ち消して、憧れのバイオリンコンサートを聴きに行くことにしたのです。

その日も最高気温三十度、蒸し蒸しするお盆の最中でした。会場は神楽公民館の「木楽輪」。聴衆はほとんどがセミナー受講生の家族や知り合いの人たちのようでした。この日発表する受講生は全道各地から来た小学四年生から大学生までの十名の若者たち。札幌在住のバイオリンリストに師事していることがわかりました。

前から二列目の演奏者の表情も指の動きもはつきりと見てとれる場所に陣取り、二時間近く、十数曲を鑑賞しました。私の不安は一瞬にして払拭されました。その見事な音色と響きに、学んできたテクニクを駆使して、全身全霊で表現し切る姿にオーラさえ感じ、鳥肌が立ちました。夏休みの暑い毎日をバイオリンが全ての生活を自分に強いて、今ここに立っているのだらうと想像しました。

この若者たちは青春の全てをバイオリンに賭けると決意して、来る日も来る日もバイオリンと格闘し、楽曲と真摯に向き合っているのだらう。と、そんなことを考えながら聴いていると、じわじわと胸にこみ上げてくるものがあり、涙が出てきました。

全ての曲を聴き終わり、魂は大喜びのはずなのですが、なぜか切なくほろ苦い気分分会场を後にしました。

学校力向上の取組として、全校一丸となって「そえる指導」に取り組んでいます。写真は、授業のはじめと終わりに背筋を伸ばして立腰で挨拶をすることと机の上には必要なものだけを出すことを実践している様子です。児童の集中を高めています。(旭川市立大有小学校)



センター日誌

- 7月12日 夏季拡大研究室会議
- 7月21日 教育委員会会議
- 7月26・27日 道研連夏季所員研
- 7月27日～8月5日 研究室夏季集中研
- 9月1・2日 道研連留萌大会
- 11月1日 センターだより第124号発行
- ※ 毎週火曜日 定例研究室会議
- ※ 随時 研修講座講師打合せ会議

4 学校経営Ⅰ 6/8(水)

笠井 稔雄
室 篤宏
水戸 博三
狩野 博
(北海道教育大学
教職大学院 教授)
(扇山小 校長)
(永山西小 校長)
(永山南中 校長)

Ⅱ 講師Ⅱ



講師の豊富な経験を踏まえた講義から学校経営のヒントをつかみ、分科会では危機管理や校種間連携について情報交換を行うことができました。校長の重責を自覚し、経営ビジョンに生かしてまいります。御指導ありがとうございました。
(士別市立上士別小学校 石橋 克敏)

研修講座寸描

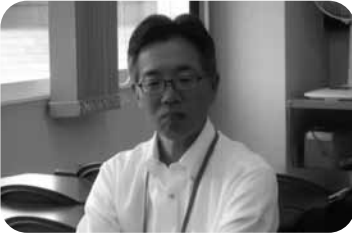
講座の様子から

5 学校経営Ⅱ 6/9(木)

Ⅱ 講師Ⅱ

岩田 俊二 (北星中 校長)
岩城 功 (美瑛小 校長)
伊東 義晃 (光陽中 校長)
和幸 (春光小 校長)

教育課程全体を見渡し、子どもの変化を踏まえて指導方法の改善に取り組むことが求められている背景、教頭として学校の活性化を図るためになすべきことを学びました。具体的な事例を交えて御指導いただき、ありがとうございました。
(東川町立東川第三小学校 三木 勝仁)



2 特別支援教育② 6/10(金)

沓澤 整治
津越 由希
佐野 亜湖
二川原朱美
(北海道立特別支援
教育センター教育課
視覚障がい教育室研究員)
(西御料地小 教諭)
(高台小 教諭)
(広陵中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ



障がいの特性に応じた自立活動の指導について、小・中学校ともに実際に授業を観せていただき、大変勉強になりました。自立活動は教師のアイデア次第ということや、自己肯定感を高めることの大切さを改めて学びました。ありがとうございました。
(上富良野町立上富良野小学校 岩月 琴美)



(美瑛町立美瑛東小学校 瀬戸ちあき)

6 読書活動 6/10(金)

Ⅱ 講師Ⅱ

鈴木 洋伸 (雨紛小 教頭)
北川 恒 (東町小 教諭)

児童に、本に親しませるにはどのようなことが必要か学ぶために本講座を受講いたしました。学校司書の方と情報交換でき、司書と教職員が協力・連携することの大切さや、教科における図書活用の工夫など、数多くのことを学ぶことができました。



7 書写実技 6/21(火)

Ⅱ講師Ⅱ

矢野 敏文 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 蛭名 伸也 (永山南中 教諭)

公開授業では、導入の生徒作品の取り上げ方や空書指導、範書、机間指導での声掛け、ワークシートの工夫など生徒を授業に引き込む工夫を学ぶことができました。そういう取組が集中して半紙と向き合う生徒の姿になっていたと思います。実技研修では、筆遣いや左利きの子どもに対する指導法など、丁寧に御指導いただきました。作品評価を交流することができ、今後の授業実践に役立つ講座でした。

(土別市立朝日中学校 森田 雅彦)

8 小学校外国語活動 7/1(金)

佐藤 直子 (愛宕東小 教諭)
 菅野 博之 (末広小 教諭)

Ⅱ講師Ⅱ



外国語教育の現状とこれから大切なこと、授業に役立つアクティビティの紹介や研究授業、一日の講座の中でも幅広い内容を研修することができました。自校でも、教師・児童が楽しめる外国語活動を目指し、実践を重ねたいと思います。

(中川町立中央小学校 千葉 祐貴)

9 複式教育 7/4(月)

Ⅱ講師Ⅱ

南山 夕子 (嵐山小 教頭)
 小松 友子 (千代ヶ岡小 教諭)

リーダー学習の進め方や、時間の設定の仕方など、間接指導の工夫について学ぶことができました。準備や指導の手立てを考えておくことの大切さが分かり、参考になりました。今後の指導に生かしていきたいと思っています。

(旭川市立旭川第五小学校 菅原 啓子)



11 幼小連携教育 7/26(火)

川崎 直人 (智恵文小 校長)
 渡辺 盛二 (旭川大学附属幼稚園 園長)
 辻村 和也 (高台小 教諭)

Ⅱ講師Ⅱ

AKB教育↓危ない・汚い・馬鹿馬鹿しいことを幼小期にあえて体験させ、子どもたちの感性を高めようという教育を重視している幼稚園の取組を知りました。幼小連携には、まず互いの活動を知ることから始める必要があると感じた一日でした。

(旭川市立大有小学校 阿部 志保)



15 学校事務実務 8/1(月)・2(火)

高橋 顕二
北海道教育庁教育職員局
教職員事務センター
市町村立学校旅費
第二グループ 主査

阿部 一朗
（明星中）事務職員

柴田 篤史
（向陵小）事務職員

坂本 典之
（上富良野中）事務職員

小林 篤史
（富良野小）事務職員

天野 修
（北野小）事務職員

岸田 宗子
（旭川第三小）事務職員

講師Ⅱ



教育環境整備に重点を置いた教育予算への取組、事務職員間の小中連携の現状、旅費に関する講義等、多くのことを学びました。また、参加者それぞれが資料を持ち寄り活発な協議が行われ、日常実務に生かせるものとなりました。

（旭川市立東鷹栖中学校 木村 達也）



17 学校力向上対策 8/3(水)

講師Ⅱ

水上 丈実
北海道教育大学
教職大学院 教授

尾崎 雄一
（近文小）教頭

岸 和宏
（神居中）教諭

本講座を受講して、ミドルリーダーを中心とした、職員一丸となった学校力の向上を目指すことが大切だということが分かりました。これからは、一人一人がやりがいを感じ、役割を十二分に発揮できるような環境づくりを心掛けていきます。

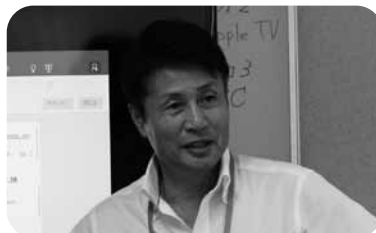
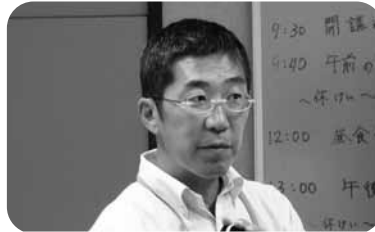
（名寄市立名寄西小学校 栗林 友恵）

22 ICT活用 8/24(水)

橋本 尚成
（陵雲小）教諭

吉田 暁弘
（北門中）教諭

講師Ⅱ



前半は、中一の英語の授業でICTを効果的に活用した授業を観せていただきました。後半は、タブレットの種類や接続の仕方等を教えていただき、実際にiPadを操作しながら実技指導を受けることができて、大変勉強になりました。

（当麻町立当麻小学校 田村健太郎）



23 技術・家庭科実技 8/24(水)

講師Ⅱ

川邊 淳子
北海道教育大学
旭川校 教授

西原 蘭
（旭川第三小）教諭

今回の研修講座では、授業の実際や実習指導の仕方、防災教育について学びました。家庭科で学習したことを、どのようにして実生活に生かしていくかが大切だと改めて感じました。分かりやすく御指導いただき、ありがとうございました。

（旭川市立緑新小学校 大久保藍莉）

24 学級活動 8/25(木)

大谷 和範
角地 祐輔
（旭が丘中
（東陽中
教頭）
教諭）

講師



参加者で学級活動や目標を交流することができました。「もめごと」を乗り越えるために学級目標を再確認しながら進める必要があるのです、きちんと作成することが大事であることを学びました。分かりやすい御指導ありがとうございました。
(旭川市立神居中学校 品田真太郎)

14 道徳教育 7/28(木)・8/30(火)

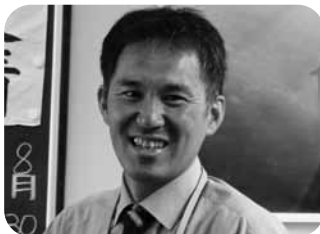
講師

水上 丈実
則末 俊介
阿部 広嗣
齋藤 直樹
（北海道教育大学
教職大学院 教授）
（永山中
神居東小 教諭）
（永山南中
教諭）

です。

(和寒町立和寒中学校 小林 智)

一日目の講座・演習、二日目の参観授業という二日間のバランスがよく大変勉強になりました。特に参観授業では、考えを深めるための方策が明日からの授業に即、生かせるものでした。全員参加の工夫もされており来年も受講希望です。



16 理科指導 8/2(火)・8/30(火)

高橋 一将
北島やよい
森脇 芳秀
安田 佳史
（旭川校 講師）
（青雲小 教頭）
（愛宕東小 教諭）
（明星中 教諭）

講師

(士別市立士別南中学校 三上 貴也)

仮説を確かめるための方法を見直して引き出す場面や、それを基にしたグループでの活発な話し合い、思考が深まる課題の設定、話の型を用いた表現指導等を観ることができ、大変有意義なものでした。学び多い授業をありがとうございました。

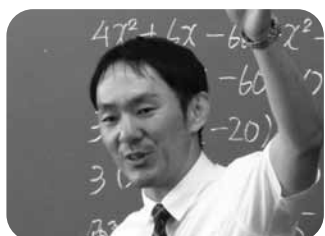


12 算数・数学科指導 7/27(水)・8/31(水)

講師

相馬 一彦
武田 聡
西尾 圭一
山口 正博
（北海道教育大学
旭川校 教授）
（北星中 教頭）
（永山南小 教諭）
（春光台中 教諭）

講義や実践交流、研究授業の参観を通して、考える楽しさを実感できる授業の工夫を学ばせていただきました。特に、問題解決型授業の大切さを実感しました。御指導いただいたことを生かし、授業改善に努めていきたいと思っています。
(名寄市立名寄南小学校 西村 萌実)





13 外国語科(英語)指導 7/27(水)・9/1(木)



講師Ⅱ

笠原 究 北海道教育大学
旭川校 教授
鎌田 昌記 旭川第二中 教頭
松田多栄子 春光小 教諭
白井 洋志 六合中 教諭

聞くこと・話すことの指導におけるアクティブ・ラーニングの効果的な取り入れ方、それを踏まえた授業参観を通し、文法・本文指導法を学びました。様々なアクティブ・ラーニングの手法を今後の授業で還元します。ありがとうございました。

(名寄市立名寄中学校 上杉 清香)

10 国語科指導 7/26(火)・9/6(火)

講師Ⅱ
上田 祐二 北海道教育大学
旭川校 教授
北原 孝子 旭川第三小 教諭
泉 裕子 東光小 教諭
岩城 卓也 忠和中 教諭

子どもたちの書く力を身に付けさせるために、その単元を通して何を指導するのか。また、目標を達成するために、どのような手立てをとるのか。お二人の先生が綿密に授業づくりをされており、大変勉強になりました。ありがとうございました。

(剣淵町立剣淵小学校 大家 大地)



18 生徒指導 8/3(水)・9/7(水)

講師Ⅱ
長谷川 猛 緑が丘中 主幹教諭
鈴木 桂子 新町小 教諭
藤井 宏二 神居中 教諭

生徒指導の観点を盛り込んだ体育の授業では、付箋の活用によって、自分の課題を可視化でき、課題解決から自己存在感が高まっていると感じました。新町小では、クラスの仲間が応援し合ったり、互いに高め合ったりしていて感動しました。

(旭川市立啓明小学校 武田 千鶴)



25 校内研修 9/7(水)

講師Ⅱ
長嶋 義和 大町小 教頭
鈴木 一朗 大町小 教諭
白形賢太郎 大町小 教諭

(下川町立下川中学校 吉野 恵子)

実践的指導力の向上を図る校内研修の在り方を講義、公開授業、事後研へ参加し学ぶことができました。研究主題・副題の設定の仕方、活発に意見が交わされる事後研の工夫等、大変分かりやすく御指導いただきありがとうございました。



上川教育
研修センター

所長挨拶

施設のあらまし

組織機構図

研究室

開催要項

実施講座の様子

カレンダー

センターだより

資料室

アンケート

センター例規集

リンク

ウェブ開設 2015.12.03

カウンタ数: 07335

上川教育研修センター
〒070-0036 北海道旭川市6条通4丁目
TEL 0166-24-2501
FAX 0166-24-2512 地図はこちら

8月25日(木曜日)

学級活動

8月29日(月曜日)

PC実技 プレゼン

8月30日(火曜日)

上川教育研修センター

試そう上川の力で 創ろう上川の力で 生かそう上川の力で

■ 2016.08.19 「平成28年度第1回上川教育研修センター組合総合教育会議」の議事録を作成しました(PDF)

■ 2016.08.18 「実施講座の様子」に一般講座と出前講座の一部を追加しました。

■ 2016.07.21 「上川教育研修センター組合総合教育会議運営要綱」を制定しました(PDF)
「上川教育研修センター組合教育大綱」を策定しました(PDF)

■ 2016.06.06 「実施講座の様子」に実施講座の一部を追加しました。

■ 2016.06.04 「資料室」の資料データベースファイルを更新しました。

【センターWebサイト紹介】

各種研修講座・パソコン実技講座の情報や実施講座の様子、保管資料（教育関係書籍等）の紹介、センターだより「教育研修」のバックナンバーなど、当研修センターについての情報を掲載しています。ぜひ、御活用ください。

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

～受講後アンケートのお願い～

研修講座を受講された皆様にご一定期間をおいてのアンケートをお願いしています。講座の成果と課題を推し量り、次年度の計画を立てるための大切な資料として活用させていただいておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

当研修センターのWebサイトからも御回答いただけます。

心に残る授業

その 74



上川教育局義務教育指導班
指導主事
木下 浩 太

今の子どもたちが活躍する未来は、加速度的な社会の変化を柔軟に受け止めながら、主体的に学び続け、多くの人と協働しながら判断し行動することが一人一人に求められる社会になると考えられています。

今後の理科教育においては、「主体的な学び」や「対話的な学び」を通じて「深い学び」を実現させ、理科の「見方・考え方」を成長させていくことが大切です。

私が参観した心に残る授業は、子どもたちが解決の見通しをもって、生き生きと活動する中学校第一学年の理科の授業です。

本授業は、試験管に入っている無色透明の四種類の水溶液を区別する実験で、課題解決に向けた手順や根拠を個人で考えた上で、グループ内で意見交換を行い、適切な方法を決定する場面が設定されていました。

検証方法の交流場面においては、どのグループにおいても「始めに、全ての液体をリトマス紙につけることでアルカリ性と酸性とに分けることができ、次に…」というように、根拠を示しながら手順を説明するなど、論理的な思考の過程がよく分かる発表が行われていました。

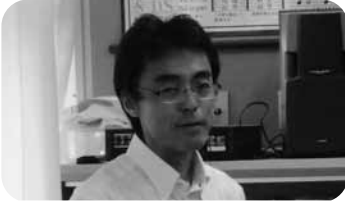
さらに、他のグループの考えを基に、「先に加熱することで作業の手順を減らせるのではないか」など話し合いによって一層思考を深め、検証方法の改善を図るグループもあり、「主体的・対話的で深い学び」が実現している様子を見ることができました。

私は、子どもたちが目的意識をもって実験するために、根拠を明確にして仮説を立てさせるなど、生徒の主体的な活動を促す工夫が随所に見られる指導計画の工夫と、知的好奇心に満ち、積極的に学ぶ子どもたちの表情に感動し、多くの先生方にこのような授業づくりを実践してほしいと感じました。

今後、子どもたちに、これからの時代に必要な資質・能力を身に付けられるよう、「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえた授業改善の方向性を具体的に伝えていきたいと考えています。

出前講座寸描

幌加内小学校「生徒指導」 6/21(火)



【講師…五十嵐 徹(青雲小 教諭)】
講話の中で、児童理解に関する心構えや、児童への良い声の掛け方等を具体的に示していただきました。また、学級活動での方策を児童目線で体験させていただき、指導法の幅が広がりました。御指導ありがとうございました。(幌加内町立幌加内小学校 彦坂 天平)

美深小学校「アクティブ・ラーニング」 5/16(月)



【講師…櫻井 啓子(朝日小 教諭)】
授業実践例を教えていただいたり、演習を行ったりする中で、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりについて具体的に考えることができました。目指す姿を常に見据えています。御指導ありがとうございました。(美深町立美深小学校 吉田 萌子)

東川第二小学校「ICTの活用」 7/22(金)



【講師…佐々木 玲(北光小 教諭)】
和やかな雰囲気の中、ICTの活用の仕方と留意点を御指導いただきました。機器の特性を生かして上手に授業に取り入れることで、子どもへのアプローチの仕方が広がり、学習効果も上がると実感できました。ありがとうございます。(東川町立東川第二小学校 吉川 克幸)

トナム小中学校「特別支援教育」 7/19(火)



【講師…田中 英規(東川養護学校 教諭)】
物事や環境の捉え方や合理的配慮について分かりやすく講義していただき、大変勉強になりました。また、「あなたにしてみれば」というキーワードが印象に残り、相手意識の重要性を改めて感じました。ありがとうございました。(占冠村立トナム小中学校 藤田久美子)

多寄小学校「合唱指導」 8/22(月)



【講師…南雲 育代(西御料地小 教諭)】
これまで、合唱指導を行うにあたって、子どもたちに多くのことを求めすぎているのではないかと考えさせられる研修講座でした。また、明日からの授業のヒントになることを多く学ぶことができました。ありがとうございます。(土別市立多寄小学校 阿部 貴洋)

大町小学校「特別支援教育」 8/16(火)



【講師…津越 由希(西御料地小 教諭)】
障がいのある特性に応じた支援について、具体的な手立てを豊富な事例を基に教えていただきました。合理的配慮、支援の連携、子ども同士をつなぐ支援の大切さについても考えることができました。御指導ありがとうございました。(旭川市立大町小学校 佐渡 恵美)

南富良野小学校「体育科実技」 9/12(月)



【講師…及川 裕一(千代ヶ岡小 教頭)】
鉄棒の逆上がりは補助としてタオルを使えば簡単にできるようななる、と実演していただき、実践してみるとすぐできるようになりました。子ども達の指導にすぐに役立てられる素晴らしい指導方法を学べました。御指導ありがとうございました。(南富良野町立南富良野小学校 福田 茂樹)

東聖小学校「小学校外国語活動」 8/30(火)



【講師…会田 有紀(永山南小 教諭)】
取り組みやすい英語の活動を織り交ぜていただき、主体的に参加できる研修の時間になることができました。今後更にニーズが高い英語活動の研修を自校で行うことができ非常に有意義な時間を過ごすことができました。(東神楽町立東聖小学校 鏡 雄介)

平成二十八年年度

旭川市小中連携・一貫教育
推進研修会に参加して

上川教育研修センター

副所長 奥山 ゆみ子

八月二日（火）に、旭川市教育委員会による、小中連携を主に担当している教職員を対象とした研修会と、PTAや地域住民を対象としたシンポジウムの二部制の研修会が開催されました。

第一部では、旭川市小中連携教育モデル校の取組発表、既に小中一貫教育を全市で取り組んでいる姫路市の取組発表、旭川市の小学校五・六年生、中学校一年生の全児童生徒を対象に実施した児童生徒のアンケート結果を基にした中学校区との交流が行われ、九年間をつなげるために必要な取組について協議されました。私は第二部のシンポジウムに参加しました。

「旭川市が目指す小中連携・一貫教育について」～みんなで学校・家庭・地域の役割を考えませんか～をテーマに、先進地である姫路市の取組発表の後に、鈴木 信人氏（旭川市立旭川中学校長）、佐々木 直人氏（旭川市PTA連合会長）、竹内 訓氏（春光台・鷹の巣まちづくり協議会長）、太田 太氏（姫路市教育委員会）をパネリストに、田澤 清一氏（旭川市教育委員会学校教育部長）をコーディネーターにして、パネルディスカッションが行われました。

姫路市の取組発表後、パネリストから学校・家庭・地域の連携の在り方などについて、それぞれ意見が述べられました。地域の特性などから取り組み方には多少の違いがあることなど、多くの情報を得ることができました。

最後に「なぜ連携するのか。連携すると地域がどのように変わるのか。」を学校・家庭・地域が共通理解することの大切さと、一貫教育推進の核は学校であるということと合わせて、学校・家庭・地域の他に、市や教育委員会などの行政が関わることの重要性が再確認されました。

本センターは、これまで、ほとんどの講座において、講師による講義や提言、実践発表の他に、小学校と中学校の二つの研究授業を設定し、小・中学校の教職員が互いに授業を見て学び合い、研究協議を深める場を設定しています。また、幼・小の連携講座や学校・家庭・地域の連携講座などを開催し、子どもの成長と学びの姿を学校だけではなく社会全体で共有し、より円滑な教育指導に資する講座の運営に努めてまいりました。このシンポジウムに参加して、改めて、本センターの役割の重要性を再認識したところです。今後、各市町村教育委員会等との連携をより一層図りながら、小中連携・一貫教育に関わる内容や資料・情報等の充実した講座の開催に努めてまいりたいと考えています。

【出前講座の御活用を！】

各小中学校及び地域の教育力の向上を目指し、校内研修及び地域の教育研修を支援することを目的に出前講座を実施しています。特に、遠方の地域や、多忙のため、なかなか研修講座に足を運ぶことができない学校等のニーズに即応できる取組となっています。ぜひ、御活用ください。

- ◆研修講座開催要項 29 ページの詳細を御覧いただき、32 ページの申込書をお使いください。
- ◆希望内容に応じた最適な講師を人選し、派遣いたします。講師を指定しての申込みは御遠慮ください。

出前講座申込書	
研修センターに FAX で提出してください。 (Fax : 0166-24-2512)	
講座名	(例) 小・中連携推進 数学科連携 数学科連携 (小・中連携推進)
申込時期	平成 年 月 日 午前() 午後() 受付時間: 午前 9 時～午後 5 時
会場	
研修の概要	
申込講師	(例) 1. 奥山 ゆみ子 2. 田澤 清一 3. 鈴木 信人
申込校名	旭川市立旭川中学校
担当教員	奥山 ゆみ子
申込番号	
備考	

【資料室の御活用を！】

当センター 1 階の第 2 研修室には、各種教育雑誌や教科書を、3 階の図書室には、様々な地域の教育関係広報誌や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。教育関係の雑誌は、貸出しも行っていますので、当センターにお立ち寄りの際にはぜひ、足を運んでいただき御活用ください。

なお、所蔵資料は当センター Web サイトからも御覧いただけます。





学ぶ教師・成長する学校

～教育改革（学習指導要領改訂）を展望しつつ～

（講演の概要）

千葉大学特任教授 天 笠 茂

「審議のまとめ」をめぐって

審議のまとめのポイントとしては、カリキュラム・マネジメントということについて。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」この3観点でいこうというのが、次の学習指導要領の方向性であり、感性や思いやりについては、観点別学習状況の評価の対象外とし、「関心・意欲・態度」についての修正・訂正の見直しをしていく。学習評価の部分は、コンパクトにまとめられる部分である。

論点整理は、審議のまとめの一部であるという位置付けである。論点整理と審議のまとめは、まったく違う方向ではなく、論点整理＝審議のまとめと思っても良い。ワーキンググループによる審議が行われ、1年間かけてまとめられ審議のまとめとなった。それを8月中にひとまとめにして、パブリックコメントや各団体からの意見などを反映し、中教審がまとめる。12月くらいにこれらをまとめ答申にする。その間、教科調査官を中心に恐らく学習指導要領の作成に向けて準備が行われ、我々が目にするのは、年を開けてからの1月くらいになり、年度を越えるということはないだろう。来年の4月からは、新しい学習指導要領の影響のもと、仕事を進めていくことになるかと思う。移行措置期間の3年間、小学校、中学校、高等学校というスケジュールは今までと変わらない。高校の情報を小学校、中学校ともに視野に入れることが重要である。今回は、高校を変えようという意思が強く、それぞれ高校の動きが、小中学校に降りてくる。こういうことがかつてと少し違う。幼稚園から高校までの全体を比較しながらどういう風な目標を各学校種におき、全体を貫く各教科の在り方などが学習指導要領に反映されていく。

アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントがこの1年、話題を占めてきた。最近では、アクティブ・ラーニングという言葉は目立たなくなった。むしろ深い学びとか、対話的学びとか主体的な学びなどの言葉を使うようになってきた。少なくとも1年間、この言葉を掲げたのは良いが、動きや推移がこの方向で良いのか、国なりに考えているようだ。カリキュラム・マネジメントということが、アクティブ・ラーニングに比べるとずいぶん関心が薄くなっているが、むしろ一体になって考えていくべきものである。

教育課程（カリキュラム）について

学校の教育目標を実現するために、教育課程を編成する。育てたい資質能力などについては、かなり教科に入り込んでくる。狭い意味でいうと教育課程は、「組織配列した教育内容」や「配当した授業時数」についてだが、広い意味でいうとこの2つの他に「教育理念・目標」と「教材・教具・施設・設備」を含んだものが教育課程といえる。「組織配列した教育内容や配当した授業時数」が核になって「教育理念・目標」を目指すためにあり、それを支えるために「教材・教具・施設・設備」があるという考え方もある。カリキュラム・マネジメントについては、このところの基盤を作ること。教育課程についての整理のしかた、構造的に物事を考えることについて理解することがポイントになる。その上で、教育理念・目標が整列配列した教育内容に繋がり、日々の教育活動と目指す学校の目標がどういう形で繋がり、繋げようとしているか。教育理念・目標は学校長がリーダーとなって提起されるものと、教育内容や授業時数がどんな繋がりになっているか。カリキュラム・マネジメントという考えからすると、個々の先生方の営みすべてを繋ぐことが学校としての相乗効果に繋がる。

学習指導要領総則

今回の動きは、総則を変えていこうとしていて、学校の先生方全員にも読んでほしいという願いがある。総則の構成については、1.教育課程編成の一般方針、2.内容等の取扱いに関する共通事項、3.授業時数等の取扱い、4.指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項でひとまとめになっている。そのあとに解説書となり、その内容について詳しく書かれている形になっている。論点整理に登場している総則のイメージは、第1 小学校教育の基本、第2 教育課程の編成、第3 教育課程の実施と学習評価、①教育課程の実施②学習の充実、第4 児童の発達を踏まえた指導①児童の発達の支援②特別な配慮を必要とする児童への指導、第5 学校活動の充実のための学校運営上の留意事項①学校の指導体制②家庭・地域との連携・協働、第6 道德教育推進上の配慮事項、別表 各教科等の見方・考え方となる。これが、現在の総則についての柱建てになっており、各学校のカリキュラム・マネジメントとつながっていく。

カリキュラム・マネジメントとは

各学校において、総合的な教育計画である教育課程について、各教科等の教育内容の組織など編成を図り、協働を促し、経営資源の効果的な投入や諸条件の整備を通して学校教育目標の実現を目指す営みである。①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。②教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。③教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。キーワードで上げると、「教科横断」「PDCAサイクル」「資源の効果的な投入、組み合わせ」の3つが示されていることである。これらを単独ではなく、構造的に組み合わせることが重要である。

教育内容と経営資源の効果的な組み合わせとしてのカリキュラム・マネジメントについては、カリキュラムを核として協働する組織文化など「協働」がキーワードになる。中教審答申の「チーム学校」として、様々な職種のつながり、学校事務職員や養護教諭等と学級担任との連携やどういう風に経営に参加していくか。地域の人の参加、コミュニティースクールについて、全ての学校に置くという考え方がある。地域の方々が、学校の教育方針を理解していくことが大切である。地域の方が教育課程を承認し共有しあって互いに理解しあっていく必要がある。

教科横断としてのカリキュラム・マネジメントについては、各教科で資質能力に向き合い、考えていく必要がある。単独の教科では向き合いきれないことに対して、様々な教科で連合として考えていく。現在行っている言語活動の充実をやめる必要はなく、引き続きバージョンアップして対応していくことが、次の指導要領改訂の対応となる。資質能力という言葉で迫ってきているが、単独の教科で対応していくのも必要であり、教育課程全体で対応していく。

校内研修に向けて

従来の小・中学校それぞれの校内研修の在り方を見直していかなければならない。比較的小学校は、一つの教科に集中して取り組んでいる。中学校は一緒に取り組めるのは、特別活動や生活指導など特化して行っているところが多い。これからは、例えば、表現力を育てるとしても、中学校のようにいろいろな教科から表現力を伸ばしていく形が変わってくる。小学校の場合は、教科と連携してどう研修を進めていくか大切になってくる。教育内容相互の関連をおさえ、テーマによる教科等の関連・横断、育てたい資質能力による教科間の関連・横断が必要である。知識とコンテンツと能力というコンピテンシーは相互に関係しあうものであり、資質能力の育成のためには知識の質や量も重要となる。子どもたちの現状をしっかり捉え、校内研修は授業研究を通して深め、進めていくことが重要であるアクティブ・ラーニングについては、教材研究こそ大切であり、全教職員による協働が必要である。

今、研究室では… センター所員研究授業が終了！

第16次研究3年次

対話による思考の共有化

3つの条件を整えると、みんなの考えが結び付く！



研究員2年目
研 鷹 栖 中 学 悦 代
齊 藤

中学2年 英語科 Project1「ミニ英語新聞をつくろう！」

学習課題を「学校祭についてミニ英語新聞の記事を書こう」と設定し、3つの条件を通して、分かりやすい記事を書くための工夫について話し合いました。

条件①: 話合いの目的や
明確なゴールの設定



ALTとJTEのやりとりの内容を板書でも示し、グループの話合いを通して記事の内容を改善するというゴールを明確にしました。

条件②: 互いの考え方の理解や
違いの見える化を促す工夫



「個人の考え」や「話合いの結果」が見えるワークシートを活用し、文章が変化していく様子の見える化を図りました。

条件③: 集団思考に
最適な場の設定



英語リーダー(進行役)を配置したグループ編制や話合いに役立つ表現の提示により、集団思考に最適な場を設定しました。



研究員1年目
研 大 馬 小 学 校 大 輔
有 場

小学1年 算数科「たしざん」

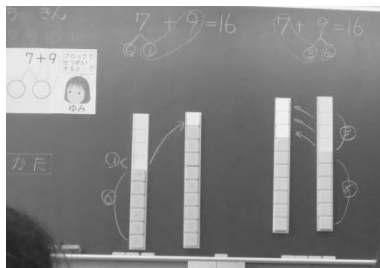
学習課題を「被加数分解の仕方をブロックで説明しよう。」と設定し、3つの条件を通して、繰り上がりのある足し算における被加数分解と加数分解の考え方の違いについて話し合いました。

条件①: 話合いの目的や
明確なゴールの設定



1年生でも取り組むことができるように、スモールステップでゴールを設定しました。

条件②: 互いの考え方の理解や
違いの見える化を促す工夫



被加数分解と加数分解を表したブロックとさくらんぼ計算を並べて板書し、考え方の違いが見える化しました。

条件③: 集団思考に
最適な場の設定



被加数分解の意味を捉えさせる場面では「全体」、短時間で自分の考えを表出させる場面では「ペア」で話合いをさせました。

パソコン実技 研修講座の御案内

日頃、校務にお使いのパソコンがリース期間終了に伴い更新となり、基本ソフトが大きく様変わりしました。また、ワープロ・表計算ソフトのバージョンが新しくなつて、ちよつとしたことが聞きたいけれど聞く機会が少ないということはございませんか？

ICT分野における社会の変化が目まぐるしいここ数年、これまでとは違った機能やサービスが生まれ、改めてパソコンについて学び直したいと思っている方や、このタイミングでタブレットを授業に活用してみたいとお考えの方は多いのではないのでしょうか。

そんな時は、上川教育研修センターで開催しているパソコン実技研修講座を受講してはいかがでしょうか。

パソコン実技研修講座では、上川教育マイコン研究会に講師をお願いし、受講者二名に対して講師一名を基本体制とし、受講された先生方の声を聴きながら柔軟に講座の内容



を対応させて進めております。

また、当センター所有の十一台のタブレットPCを実際に操作して学べる講座も用意しています。



講座の主なラインナップ (活用ソフト等の略称)

- ・表計算（エクセル）入門…初心者向
- ・表計算（エクセル）活用…上級者向
- ・ウェブ作成（ホームページビルダー）と画像処理（フォトショップ）
- ・プレゼン（パワーポイント）
- ・動画編集（ロイロスコップ）と画像処理（フォトショップ）
- ・タブレットPC入門（iPad）
- ・タブレットPC活用（iPad）

これらの講座の中で、最も人気が高いのはタブレットPCです。

昨年度は一回の講座に二十名を上回る受講希望の回もありましたが、今年度は受講者数を十人に抑えてニーズを絞りこんで進めています。特に、授業場面での活用を意識した内容を目指し、講師陣も日々実践の積み重ねと研究に取り組んでいます。

各学校におかれましては、エクセルデー

タを引き継いで校務を進めていることが多いと思いますが、小さなエラーが存在したり、そのデータを作成した先生が異動となつていたりして、思い通りに仕事が進まないという悩みを聞くことがあります。

こうしたデータを自分で修復したいという目的をもって受講される方が増えており、次いで人気なのが表計算（エクセル）になります。

エクセルは非常に奥が深く、一つの結果を得るまでのアプローチがいくつも

あります。よりシンプルで分かりやすい数式で、かつ、次に引継いででもすぐ分かるように、講師がアドバイザーいたします。

他の講

座で、今、最もお勧めしたいのがウェブ作成です。昨年度から少しずつ内容が変化していますが、学校ホームページを作成して公開するという内容にとどまらず、クラウドサービスを初めとしたウェブ上の各種サービスを安全で有効に校務や授業に活用する方法もお知らせしています。

今後、学校は無線LANが整備・充実し、



児童・生徒の学びがネットワークを介して双方向に行き交い教室内で共有されることでしよう。さらに、ネット上の情報とリンクして学習成果物となつたり、教師が提示する教材となつたりすることでしょう。

そういったネットワークの世界のイメージを理解することにも大変有効なウェブ作成講座となっております。今年度分は終了してしまいましたが、ぜひ次年度以降の講座に期待していただきたいと思っております。

講座内容はラインナップ欄で紹介しているソフトが中心となりますが、その時々で、校務に役立つ小技やソフトウェア、デジタル機器など、経験豊富な講師陣が多様な視点で個別にアドバイスをいたします。

学級担任にとどまらず、養護教諭、事務職員、栄養教諭の方々からも受講いただいております。近頃では教務担当者の受講も増えてきました。

冬休み等、長期休業中の講座も準備していますので、ぜひ一度、研修センター三階のパソコン室に足をお運びいただければと思います。皆様の受講を心よりお待ちしております。

発行日 平成二十八年十一月一日
上川教育研修センター

責任者 旭川市六条通四丁目
電話（〇一六〇）二四一・二五〇
印刷所 小谷要次
東信印刷株式会社

※この用紙は再生紙（古紙70%）を使用しています。